

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

Email : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

三條別院にお参りさせていただくようになってから、はや二十年がたちました。本寺小路から門を入り、簀え立つ本堂にむかって、合掌し挨拶をいたします。そのときの心境はまことに爽やかで快い気持ちに満たされ、阿弥陀様、いつも見守ってくださいありがとうございますとつぶやきます。

振り返ると、お付き合いをいただいていた「I先生」から、推進員教習を受講することを薦められ、前期講習に参加することになり、初めて三條別院の存在を知りました。当時は一泊二日の講習でしたが、教義は理解できず仏弟子になるための勉強か？ 推進員とはどのような役割があるのか？ なぜ念仏によって救われるのか？ 何故何故が、頭の中を渦巻いて、迷いの中に投げ出されたようでした。

それにしても、二日間を「本尊のもとですごしたことが、ひとつの転機となったことに間違いはありません。聴いて聴いてとことん聴かねばと、納得できない性格から別院という聞法道場に通いました。でも、「わかったというはわからないからだ」かつて和田稠先生が言われた言葉を思い出し安心しています。

本山での後期講習を終了し、めでたく？ 推進員となったのは、平成八年でした。

時を置かずに、女性研修会のスタッフの一員に加えられ、現在に至っています。そこでこの紙面をお借りして、教区教化委員会研修部門のひとつ、女性研修会について触れてみたいと思います。

とにかく家に縛られて、外に出かけにくかった女性に、広く聴聞してもらいたいという願いから、女性推進員が坊守と協力して活動することを本山からの要請を受けて立ち上げたのがこの女性研修会の起源と聞いています。

具体的活動は、新潟地区・長岡地区および教区全域の三箇所で開催しています。これがひとつの動機付けとなって、手次寺や別院で開催される、数々の行事に足を運ぶ女性が増えればと願っています。

第十三組西方寺門徒 佐藤 洋子氏

○次回の「三條別院に想う」は、

松浦 範夫 氏（第十一組蓮行寺）より

ご執筆いただきます。

春 彼 岸 会 報 告

春の訪れを感じつつある二月十一日、突然の寒波が訪れ、勿忘の鐘は猛吹雪の中で撞かれることとなりました。



【震災を忘れることなかれ】

た。震災発生時刻の二時四十六分より、三條別院有志の会を中心に、十八吼の鐘を響かせました。

また、春彼岸会（三月二十二日～二十四日）の



期間中、本堂で「ダキシメルオモイ展」を開催。東日本震災をきっかけとした親が子を抱きしめる姿を描いたこの作品展。

初日の逮夜後には作者の小林憲明氏は、震災直後の体験とダキシメルオモイプロジェクトが始

められたきっかけをお話され、「絵を描くことで政治的なメッセージを伝えたいのではなく、取材を通してモデルの親子から話を聞くことが自分の課題なのだ」と語られました。

また、初日には旧御堂で東日本震災復興支援チャリティーバザーも行われ、六九、八七〇円の売上がありま



【幻想的な雰囲気にもまれた本堂】



【旧御堂では被災地の物産展も】

した。開催に当たり、教区内御寺院・御門徒からは多くの物品を頂戴いたしましたことを、ここに御礼申し上げます。また、併設した募金箱には二七、六三〇円を賜りました。どちらも東日本大震災三条教区災害支援金として納めさせていただきました。

春彼岸会には、二十三日に佐々木憲雄氏（第十五組光善寺）、二十四日に齊藤研氏（第十五組正楽寺）より法話を頂きました。

今年もダキシメルオモイ展やチャリテーパーザーをきっかけに、ふらりと別院に立ち寄られた参詣者が多かったようです。「地域に開かれた別院」として、多くの方と仏法を聴聞できる場になればと感じています。



【法話講師をつとめられた齊藤氏（左）と佐々木氏（右）】

宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日
であります毎月二十八日
に、「御命日の集い」を本
堂にて、日中法要と法話、



【3月本多智之氏】

その後、座談会の場を開いております。
どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣
をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午
後一時三十分よりお勤めしております。

【四月二十八日（火）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

小柳 円晃氏（第十九組 明願寺）

◇今後の講師一覧

五月 渡邊 智龍氏（第十八組 恩長寺）

六月 田中 博之氏（第十三組 万休寺）

定例法話会

毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に
行っている定例法話会を左記の通り開催します。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 旧御堂
◇講師
一月～四月 大藤 赴磨氏（第十組 勝願寺）
五月～七月 小林 智光氏（第十二組 淨照寺）

◆現在の講師は三条真宗学院の仏教学講師の大藤氏。五月からは小林氏による「源氏物語と仏教」日本文学と仏教」。

その他の講座案内

◎別院声明教室（全五回）

〔月一回水曜日、午後六時～八時〕

①二月十八日（済）②三月十八日（済）③四月十五日

④五月十三日⑤六月十七日

講習内容 正信偈 草四句目下

講師 真島修智氏（第十六組 光得寺）

参加費 五〇〇円／回

◎別院書道教室

〔月一回第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕

講師 木原光威氏（新潟県書道協会理事）

月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

随時募集中

◎三条別院巡回

三条別院の御影をお迎えして、開法会を開催しませんか？

◎別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

◎別院特別参拝

皆様の御懇念により御修復が完了した本堂・諸殿を案内



いたします。

◎日程

- ・勤行（修復の完了した本堂にて同朋唱和）
- ・三条別院の歴史について
- ・宗祖御遠忌法要概要説明
- ・諸殿拝観（修復箇所を中心に説明いたします）

本堂・旧御堂・書院・同朋会館・駒札

◎冥加金 金額は定めておりません。

○三条別院有志の会

清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会です。参加希望は別院まで。

同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後シートクリーニング代五〇〇円とシートを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は、翌朝七時より本堂にて曇朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

新任職員着任のご挨拶

■初めまして。このたび四月一日から三条別院の列座見習としてお世話になります藤井淳と申します。私の生まれは上越市の田舎の頸城というところですが。大谷短期大学部と専修学院の本科を卒業しました。八年京都に居り、昨年目坊に戻りまして、少し高田教区の仏教青年会に参加させてもらっています。列座の仕事は初めてですが、微力



ながら頑張っていきたい所存であります。至らぬ所があると思いますが、御指導よろしくお願いいたします。

■初めまして、森尻唯心と申します。このたび三条別院にご縁をいただき、四月一日より列座見習いとして勤務させていただくことになりました。私は人と会話することがとても好きであり、活気あふれる聞法道場である三条別院の法務に携わることができると、とても嬉しく思います。列座として、また御同朋御同行として皆様と共に法を聞いてゆけるよう、日々精進したいと思っております。よろしくお願いたします。



■長く別院に勤めてきた坂爪洋子嘱託・菅家富美子嘱託がそれぞれ一月三十一日付、三月三十一日付で退職いたしました。坂爪嘱託の後任として篠田晶子、菅家嘱託の後任として長谷部秀朗（幼稚園事務）が着任いたしましたので併せてご報告申し上げます。



同朋会館のお内仏のお洗濯が行われました

前の三条教区駐在教導でありました北島栄誠さんと、三条真宗学院第二期卒業生の皆様から「別院に役立てて欲しい」と、お預かりしておりました浄財で同朋会館一階会議室のお内仏を修復させていただきました。北島さんと3期卒業生の方々に深くお礼申し上げます。



す。

扉の戸裏金箔、金障子縁金箔、紗張替、縁金具色上げ、上卓・前卓・平鑿台の塗り直しをいたしました。ご来館の折には、元通りの輝きを取り戻しましたお内仏にお参りください。

◇◇編集後記◇◇

同朋会館玄関前の梅が咲きました。以前はこの梅の実で梅干しをこしらえていたそうです。松葉幼稚園側のソメイヨシノの開花も間近かとなりました。春が来ました。春が来ると自動的に「御遠忌」もすぐそこに来ていることとなります。キンチョーします。

先日三条教区大谷ボーイスカウトの子どもたちに「宗祖伝」をお話してください、との依頼が私にありました。高校生が十人くらいということなので、その年齢向きの話を一生懸命考えて会場に行きましたら、なんと小学四、五年生くらいの子が二人だけ待っていました。「話が違う！」何を話せばいいか解りません。あわてて、お内仏のおまじりの話をしました。お鈴を鳴らすのは昼寝をしている阿弥陀さまを起こすためではない。阿弥陀さまは何時でも君たちを見ておられます。線香は立てないで、折って使います。立てて線香に火を点けるのは、時間を計る意味があります。むかしは芸者さんがお座敷にいる時間を線香で計りました。だから芸者さんに支払うお金を「線香代」と言い、一本、二本と数えます。小学生には相応しくない話までしてしまいました。恥ずかしいことでありました。

（有坂）